

かわらか
発

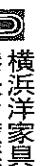
ぶれない本物の伝統

つた。

当時元町には横浜洋家具を扱う店が8軒ほどあり、注文家

年ほどの会社勤めを経て、ダニエルの前身で、親類が経営して

いた「湘南木工」に入社。回り、じつも経営は悪化して



横浜洋家具

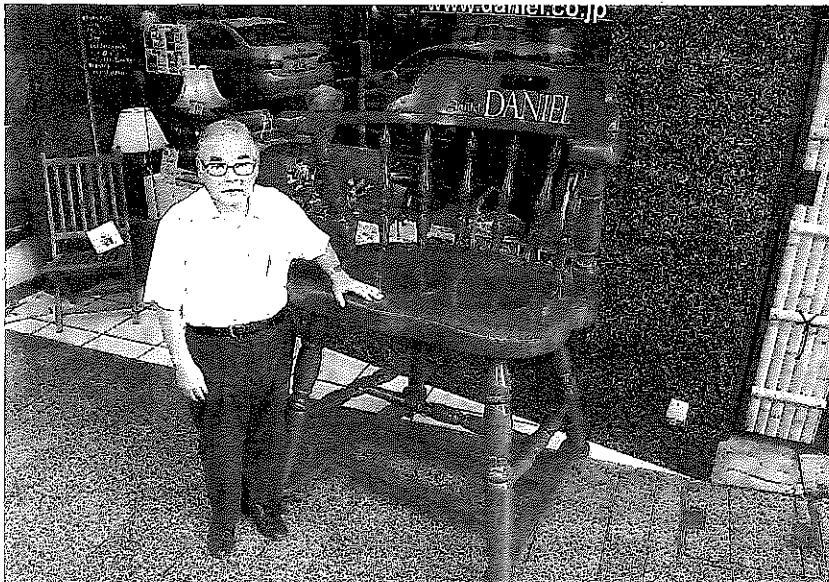
1

日本人の生活様式をがらりと変えたテーブルやイスなどの西洋家具。1859年の横浜開港後、横浜・元町周辺に移り住んだ外国人が持ち込んだ家具の修理や模倣からその歴史は始まつた。150年余り続く、「横浜洋家具」の伝統を受け継ぎ、復興と発展に取り組む人たちを訪ねた。

(黒岩竹志)

所が目撃飛び込んでくる。横浜家具を製造・販売する「ダニエル」の入り口に置かれている。子供を座らせて記念撮影する人も多く、観光名所になつていい。

英國発祥の「ウインザーチェア」というタイプで、「イスの原型」とも呼ばれる。毎年塗装し直しているため、古さは感じさせないが、製造からすでに50年以上が経過。社長の高橋保一さん(72)は「イスはうちのシンボル。手間暇かけた本物の家具は、何十年でも使えます」と胸を張



△ 店のシンボルの巨大なイスの横に立つ高橋社長（横浜市中区のダニエル）



イスを修理する天野さん

修理専門の「病院」設立

ダニエルの高橋社長は、家具の修理を専門に行う「家具の病院」を1998年、横浜市西区岡野に設立した。「地球環境保護が求められている時代に、たとえ安いからといって家具を使い捨てるのは間違い」との信念からだ。

英國発祥の「ウインザーチェア」というタイプで、「イスの原型」とも呼ばれる。毎年塗装し直しているため、古さは感じさせないが、製造からすでに50年以上が経過。社長の高橋保一さん(72)は「イスはうちのシンボル。手間暇かけた本物の家具は、何十年でも使えます」と胸を張

め、修理法に悩んで眠れない」ともあるという。

ただ日頃どう使つていい捨てるの間違いとの信念からだ。

天野さんによると、「一般的に

家具は使い込むほど木材が乾燥し、より強固になる。結合部分にはゆがみが生じるが、修理後は新品より丈夫になる」という。

「適切に修理すれば何十年も使える。捨てる前にもう一度考えてほしい」と訴える。

ライフルのつなぎを着用し、背中には「Daniel」のロゴ。タンスやテーブルなど種類ごとの陳列が一般的だったが、テーブルとイス、ソファなどを組み合わせ「シリーズ」にして売り出した。品質にもこだわり、製品には「DanieI」の焼き印を押す。

伊勢原市の工場などで、木材の切断から組み立てまで約20人の職人が手作業で行う。素材には、丈夫な北海道産力バザクラの無垢材を使用。

30万円前後のソファと35万40万円のダイニングセットが売れ筋だ。販路拡大のため、7年間の品質保証をつけた。ani-eIの焼き印を押す。だ。1973年には、親しみのある社名として、旧約聖書の預言者にちなみ「ダニエル」に変更した。

同じ年、東京の三越日本橋本店で家具販売のイベントがあった。三越の新入社員だった藤田尚志さん(59)は、家具を店に搬入していた高橋さんを今でも覚えている。

他の家具業者はみな前掛け姿だったが、高橋さんはストレートに再就職し、現在は同社取締役だ。

家具業界は、国内外の大型住宅を設計する建築家と協力し、注文家具も製作している。

市場に既製品の安い家具が出た。しかし、

家具を販売していた。しかし、

市場に既製品の安い家具が出

た。しかし、

市場に既製品の安い家具が出

た。しかし、

市場に既製品の安い家具が出

た。しかし、